「小学生とSNS」

小学校高学年の娘のLINE事情を、案じてやまない今日この頃です。LINEでお友達と簡単につながることができる便利さや楽しさを感じている反面、やり取りの難しさやわずらわしさにも気付き始めている様子です。

先日、娘のLINEの通知が鳴り止まず、なにごと？と聞いてみたら、お友達から大人数のグループLINEに招待されたというのです。以前からSNSの危険性について話し、親が内容を確認することもあると伝えていたので、すぐに相談してくれたことに少しほっとしました。そして考えられるリスクや費やされる時間などについて親子で話し合いましたが、娘は友人関係に影響が出ることを心配していました。

小学生にSNSを利用させるかは家庭の判断になりますが、機能制限などの安全策を講じるだけでなく、子どもの気持ちや友人関係などにも理解を深め、継続的にコミュニケーションをとっていかなくてはと改めて思いました。

「SNSは…」

昨今定着した”推し活”には必須のSNS。簡単に世界に発信でき、同じ趣味の人と繋がる…現実で会ったことはないネット上の友達という少し不思議な交友関係ですが、若い人ほど特段抵抗はないことのように感じます。

さて、あなたのそのネット上の友達は本当にその年齢・性別なのか、その写真の人物は本当に存在しているのでしょうか？

SNSは魅力的なツールですが、思っているより便利で安全なものではありません。他者からの評価を受けやすくなった反面、悪意に晒されやすくなったり。こうでなきゃいけないという固定観念が浸透し、加速しているルッキズム問題や、何気なくアップした写真の瞳に映った風景から自宅を特定された事件が実際に起こっている。

お米も高いし、助かるわ、と思ったのに…末っ子の大学のキャンパスは学食がなく、キッチンカーが来るもののお高い。学校周りにコンビニもないし、ということで結局お弁当。

社会人一年生の長男も、食べれるタイミングで食べ、しかも節約になるから、と結局お弁当。「ご飯だけ炊いておいてくれれば、それ詰めて前夜のおかずの残りやふりかけ掛けるから、おかずは気にしなくていいよ」と言ってくれるが、その米が高いのよ、だって弁当箱は1ℓサイズ。

結局、朝晩3～4合ずつ炊く日々が続いてます。

冷めても美味しいってことを考えるとやはり銘柄米にしてあげたい、でもこの消費スピードでは財布が痛い。

令和の米騒動、お弁当作り世帯には「悩み」どころか「苦しみ」になっているってこと、政府の皆さん、ご存知？？

せめて「食欲の秋」にはピッカピッカの白米をたらふく食べたいなぁ。

「信頼あってこその厳しさ」

いつの時代も、世の中は「競争」に溢れ、子どもたちは否応なしにその渦の中に巻き込まれていきます。子どものためを思えばこそ、多くの親は厳しく教育し、少しでも良い条件で生き延びられるよう願うものです。

子どもたちが、習い事や学習塾で多くの時間を費やし、親の期待に応えようと頑張る姿を見ると、確かに厳しい教育は高い能力を発揮させるかもしれません。しかしそれが度を越した無理になっていたりはしないかと不安にもなります。子どもが親を信頼し、親もまた子どもを信じる、そうしたお互いの信頼が無ければ、厳しさだけでは真の成長は困難です。子どもが親の期待に応えようとするのは、恐怖からではなく、愛情と信頼があってこそではないかと思うのです。

私たちの真の願いは、子どもたちの健やかな成長は間違いなく、それをどう有意義に活用していくべきか、親子で一緒に考えていきたい。AIと共に子どもたちがどんな力を育むのか、その未来が楽しみであり、私の最近気になることだ。

子どもたちはAIを「チャッピー」と呼び、友達に話しかけるように質問する。時には会話がどんどん広がり、ひとつの疑問が次の興味へとつながっていく。

最近では、チャッピーと学習計画を立て、二人三脚で目標に向かって取組んだ。そんな様子を見ていると、AIが学びのパートナーとしていかに優れているかを実感する。

でも、ふと思うことがある。私が子どもの頃、何かを調べるには図書館へ足を運び、本を探し、ノートに書き写した。調べる行為そのものが学びであった。その手間ひまをかけて得た知識は、今でも覚えている。子どもたちにも、そうした体験をしてほしいという思いと、効率性との間で葛藤もある。

それでも、AIが素晴らしいツールであることは間違いなく、それをどう有意義に活用していくべきか、親子で一緒に考えていきたい。AIと共に子どもたちがどんな力を育むのか、その未来が楽しみであり、私の最近気になることだ。

「大泉まちの子ども食堂」
ただく食材とご寄付で大泉まちの子ども食堂
す。
のお昼に緑小近くの「まちの駅大泉学園」で
す。
2土曜日　12時から受付開始
くの「まちの駅大泉学園」
00円・付添いの大人200円
きるスペースに限りがある為お待たせする

菓子なども寄付で頂くことがあり
ています。
しかったよ・また来るね』と言う言葉を聞く
て嬉しく思います。地域のご支援に感謝をし、
して地域のつながりを
を続けてまいります。